

<p>月報</p>	<p>日本キリスト改革派 横浜中央教会</p>	<p>7月号 2011年7月17日</p>
-----------	-----------------------------	---------------------------

書評『今日における奇跡、いやし、預言』

立石章三

表題の本の献本がありましたので早速読んでみました。この本はしばらくキリスト教界を騒がしていたペンテコステ運動、カリスマ運動、第3の波運動を要約して紹介し、それらが聖書的に正しいものであるかどうか検証した内容です。

皆様もアルゼンティンのカルロス・アナコンディアとか、アメリカのベニー・ヒン、ピーター・ワグナー、韓国のチョー・ヨンギという名前を聞いたことがあるでしょうか。アナコンディアは2回日本に来て「ミラクル・クルセード」という大集会をしました。長時間の大音量の讚美歌演奏と歌唱で、会衆の正常な感覚を奪っておいた上で、癒しなどの様々な「奇跡」をします。笑ってしまうのは、虫歯の治療で歯にかぶせた金属が金に変わったとか、金粉が降ったなどということをもじめに宣伝している点です。

ベニー・ヒンの場合も、聖霊の名によって奇跡を起こすことが売り物です。これらの偽伝道師たちが「手かざし」をしたり、額を指で押すと人々がバタバタと後ろ向に倒れるというのがこの集会（ショー）のクライマックスです。同じようなものに「トロント・ブレッシング」というのもありました。こちらの集会では、人々が大声で笑い出したり、2時間もの間ころげまわったりする人が出てきます。インターネットでこれらの集会風景を見ると、気持ちが悪くなるような光景です。「神は無秩序の神ではない」(I コリント 14:33) とパウロは言いますが、これらの集会は大騒音、混乱、無秩序が特徴です。

彼らのメッセージは非常に単純なもので、聖書を説き明かすのではなく、キャッチフレーズを繰り返して叫んでいるだけです。英語の通訳が付いた集会の様子を見ましたが、説教のスピードに通訳がついて行けず、適当にごまかしていました。「サタンよ去れ！」とか、「聖霊の2倍の賜物をあなたに！」などというキャッチフレーズだけが飛び交っていました。聴衆にとってはメッセージの内容など問題ではなく、興奮状態に浸っていることが満足のようでした。

昨年ベニー・ヒンは、カルト教団の危険な教祖として、イギリス入国を拒否されたそうです。また奥さんが離婚届けを裁判所に出したというので、大分たたかれています。彼らはアメリカでテレビ伝道師として知られ、自分の番組を持ち、巨額の献金を獲得し、1000万ドルもする自家用ジェット機で世界を飛び回っています。

この本にはチョー・ヨンギについては記されていませんが、同じ穴の貉（むじな）なので紹介します。彼は世界最大の教会と言われる韓国ヨイド純福音教会の主管牧師ですが、「仏教徒やヨガ行者が四次元の力で目的を達成できるなら、我々クリスチャンはなおの事、四次元の力で目的を達成できるはずだ」と説いて、自分の教説が実はオカルトと同じものであることを暴露しています。

この本は、現代人とキリスト教会が、偽預言者たちの危険な洗脳によって被害を受けている状態を憂え、彼らの主張と教理を、聖書に照らして精査している本で、皆様にもお勧めの本です。私たちは、このようないんちきをなぜ人が受け入れるのだろうか疑問に思うのですが、著者によれば、既製のキリスト教会の、聖書を伝えるという地味な伝道方法ではなく、「力の伝道」と呼ぶ、派手な目に見える効果を追求した点が、即物的な現代人に受け入れられるのだらうと分析します。

日本でも何度か「リバイバル・ブーム」が起きています。教会の地味な伝道集会では飽き足らない人々が、より大きな刺激を求めて聖霊運動に走ります。聖霊は自由に活動されますが、人間の注文によって使われる方ではありません。聖霊運動家たちは奇跡、癒し、聖霊を強調しますが、パウロは「私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます」（I コリント 1:23）と、十字架による福音を強調します。さらに「わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかには、誇るものが決してあってはなりません」（ガラテヤ書 6:14）と警告しているのですから、集会の人数、奇跡、癒しなどを誇るはずがありません。

偽預言者たちが誇る奇跡ですが、著者は、旧約聖書の時代全体で、癒しの回数は 30 回しかなかった。イエスの公生涯の 3 年間には無数の癒しがあったが、使徒の働き約 30 年間には数回だけ、書簡の 40 年間には奇跡がなかった。つまり奇跡の癒しは、イエス在世中に集中しており、パウロから徐々に取り去られたのだと聖書を分析します。それなら使徒たちよりはるかに劣る現代の預言者たちに、奇跡の癒しが行えるはずがありません。さらに現代にはもう「使徒」はいないのです。パウロは「あなたがたは…使徒や預言者という土台の上に建てられた」「神の家族（つまり教会）」であると言います（エフェソ 2:20）。キリスト教会は 1 世紀の使徒や預言者たちによって一度土台が築かれたのですから、他の土台はいりません。もし現代でも土台が必要であるなら、それは別の宗教で、別の教会を建てることになります。

著者は、アメリカで多くの人が「奇跡」の追跡調査を行ったことを記します。偽預言者たちに「癒された」患者たちの病気が再発し、宣伝されている「生き返った死人」の住所も氏名も公表されてはいません。1976 年にベニー・ヒンはカナダのオンタリオ州の病院を訪れ、大々的な癒しのわざを行ったと自分の本で主張するのですが、病院はこれを公式に否定しました。日本のキリスト教書店では、このような奇跡を紹介した本があふれていますが、それは良く売れるからです。しかし私たちは本に書かれているからといって、それをそのまま鵜呑みにしてはいけません。

「預言者や夢占いをする者があなたたちの中に現れ、しるしや奇跡を示して、そのしるしや奇跡が言ったとおり実現したとき、『あなたの知らなかった他の神々に従い、これに仕えようではないか』と誘われても、その預言者や夢占いをする者の言葉に耳を貸してはならない。あなたたちの神、主はあなたたちを試し、心を尽くし、魂を尽くして、あなたたちの神、主を愛するかどうかを知ろうとされるからである」（申命記 13:2-4）。